

日本建築学会主催 第3回子どものまち・いえワークショップ提案コンペ 最優秀賞

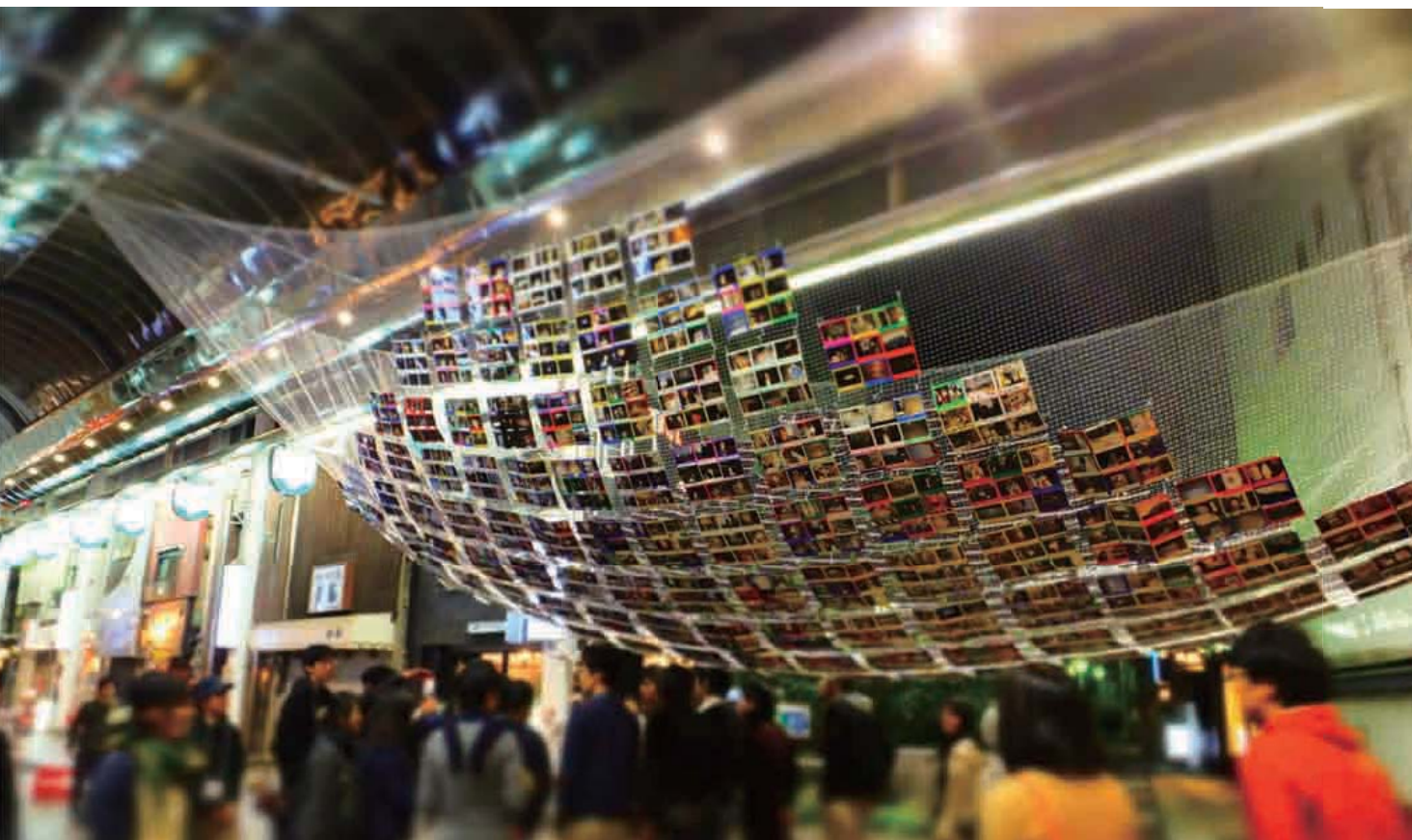
主催：日本建築学会 親と子の都市と建築講座2013
運営：宇都宮大学大学院 工学研究科 オリオンフォトタープ実行委員会
松本遼平、佐藤秀斗、中村周、羽部竜斗、福田聖也、松浦達也 他学生有志
協力：宇都宮まちづくり推進機構
宇都宮オリオン通り商店街振興組合
オリオン通り曲師町商業協同組合
協賛：富士フィルム株式会社



オリオンフォトタープ - 商店街の魅力がつくるもう一つの屋根 -

設計・デザイン：宇都宮大学大学院工学研究科
オリオンフォトタープ実行委員会
所在地：栃木県宇都宮市オリオン通り商店街
主要用途：写真展示
ワークショップ実施日：2013年10月27日（日）
展示期間：2013年10月28日（月）～2013年11月4日（月）
施工：学生
構造：鳥除けネット、ステンレスワイヤー、たこ糸、リースロック、既存可動式展示パトン

栃木県宇都宮市オリオン通り商店街にて行われた、子どもたち、通行人、地域の住民を巻き込み、まちなか活性化を目指すワークショップ。2つの商店街組合、小学校の学区に分かれたオリオン通り商店街のアーケード内に、それらを繋ぐもうひとつの屋根「フォトタープ」をつくった。地元の小学生や地域住民が『商店街の魅力』を再発見し、全ての人が共有できる写真「フォト」として切り取り、それらをワイヤーにより架られた大きなネットに張付け、もう一つの屋根「タープ」ができあがる。「フォトタープ」は商店街の魅力の集合体として展示され、さらに人間的な大きさからかけ離れたアーケード内に都市の居場所をつくり出すことを意図している。



商店街の魅力が集約した写真によるもう一つの屋根

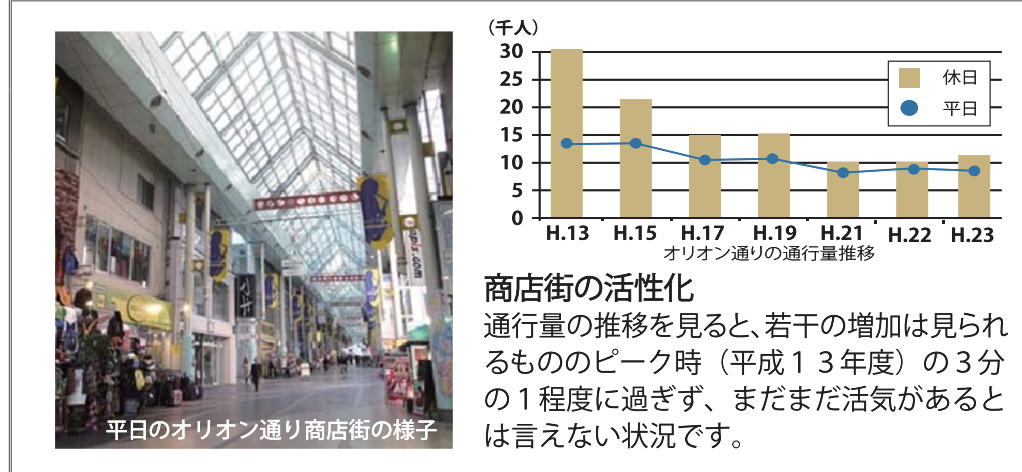


商店街の日常風景の中に非日常の風景が出現

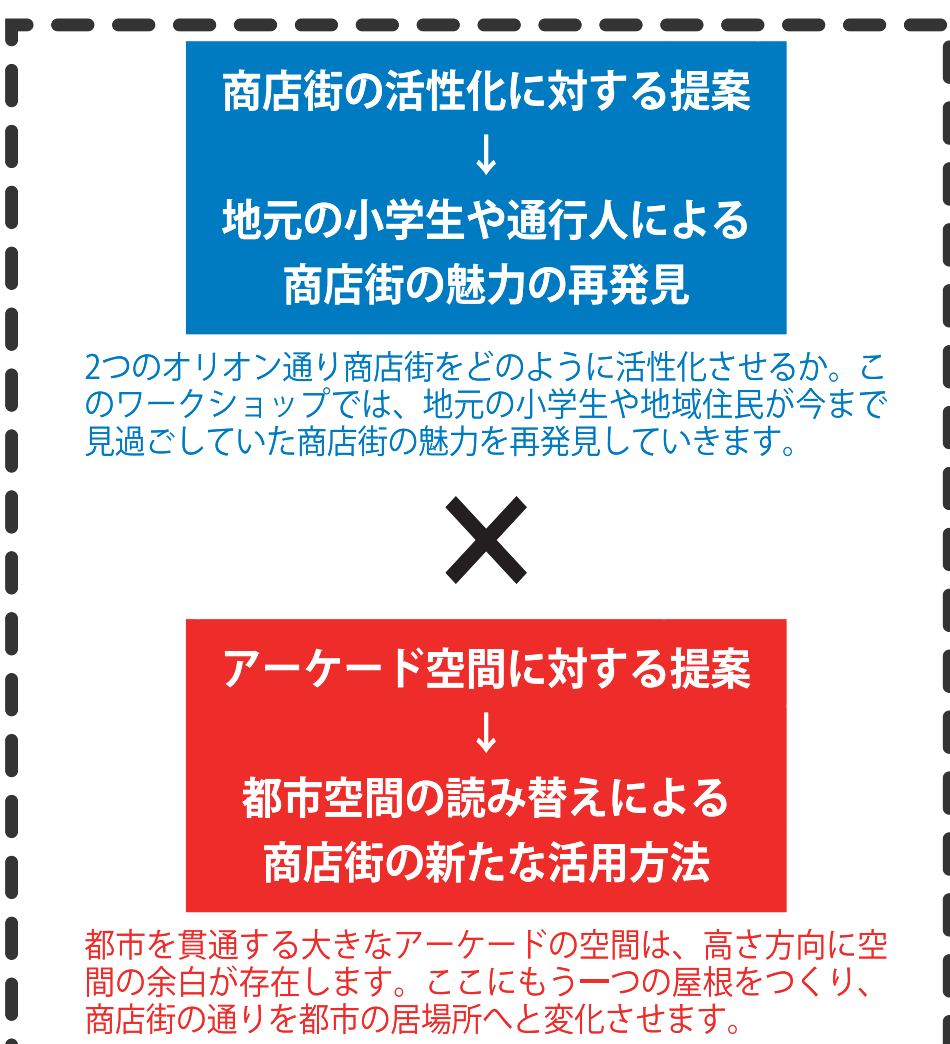


自分の撮った写真を探す子ども

■ワークショップの目的



■フォトタープとは



フォトタープ

商店街の魅力がフォトで切り取り、アーケード空間にタープとして展開

ワークショップによって期待される参加者への効果

子ども

- 魅力を探すという行為により「まちづくり」に参加します。
- 異なる2つの学区（宇都宮市立西小学校、宇都宮市立中央小学校）における小学生同士の交流を促します。

商店街

- 子どもや通行人が商店街のどこに魅力を感じるか考え、可視化し、商店街の活性化の切り口を見い出します。
- 2つに分かれている商店街組合をつなげ、商店街の人々の交流を促します。

■ワークショップの風景

ワークショップの流れ



午前の部：地元小学生によるワークショップ



午後の部：通行人によるワークショップ



■フォトタープができるまで

